

慢性呼吸不全の方のよりよいケアを目指して —複十字病院 2C病棟(医療型療養病棟)について—

複十字病院 2C病棟

看護師長 野手 尚美

『HOTステイ (ほっとステイ)』の入院病棟になる2C病棟についてこの場を借りて少し紹介をさせていただきます。

2C病棟は、COPDをはじめとした慢性呼吸不全の患者様が安心してゆっくりと療養していただく場として大きな役割を果たしております。医療療養型病棟として、看護師と看護助手がコメディカルと協力をしながら、医療処置、看護、リハビリ、介護、レクリエーション、社会資源の情報提供…と多岐にわたる援助をさせていただきます。COPD・間質性肺炎・肺癌などの疾患により呼吸困難だけでなく精神的な不安を抱える患者様が、少しでも安楽な療養生活を送れるように様々な工夫を凝らしています。

入浴「どうしたら、少しでも安楽な入浴を楽しんでいただけるか…」

医師の許可があれば、ほとんど全員の患者様が入浴をされています。入浴の順番、入浴方法、衣類の着脱の手順、酸素流量を増量するタイミングや吸入方法、洗髪の手順、浴室のドアを開けておくかどうかにまで、試行錯誤を繰り返し、一人一人の患者様にふさわしい入浴方法をカンファレンスで検討しています。介助をさせていただく看護助手の、技術と経験そして優しさが、より良い方法を生み出す源になります。患者様の湯上りの気持ちよさそうな笑顔がスタッフの励みとなります。

リハビリテーション

週に1回のリハビリテーション・カンファレンスでは、理学療法士の方と目標を共有するだけでなく、患者様に生活援助をする上で行うべき援助技術のコツや留意点、指導方法も学んでいます。

理学療法科の浅居科長やスタッフの方々の「お一人お一人の人生をどう支えていくか」という視点から語られる言葉には、大切な気づきのポイントが含まれています。慢性疾患を抱える患者様にとって「自分でできるのだろうか」ということ、一つ一つが大きな関心事であり、生きがいでもあります。

『HOTステイ (ほっとステイ)』で、肺機能の状況を評価し、その方の肺機能と生活様式にあったリハビリをしながら、在宅で生活を送るための生活訓練(予行練習)を病棟で実施することは患者様の在宅・療養

生活を支える大きな力になっていくものと思います。

生活を支えるケア…

呼吸苦の増強や合併症を発症しないために、口腔ケア、嚥下訓練、排便コントロールも丁寧に行っています。食前の排痰介助、食堂への移動、食後の歯磨き、歯磨きがご自分でできない患者様の口腔ケア、昼食前のパタカラ体操(誤嚥予防の運動です)、誤嚥を起こしやすい患者様への食事介助や内服介助…誤嚥予防のための学習会を重ねながら取り組んでいます。

昨年は個別の排泄ケアに取り組み、おむつ排泄からポータブルトイレ排泄に移行できた患者様が多数いらっしゃいました。今年は、前回紹介のあった吸入療法の個別指導と個々の患者様の状態に合った「まくら」のあり方について取り組む予定でおります。

私たち自身も患者様にとっての空気…

『ひとがほんのわずかしき空気を吸い込めないときには、ほんのわずかな空気はぜひとも良い空気ではなくちゃいけません』と、看護覚書の中の一節にあります。(ナイチンゲールの言葉ではなく、医師の言葉でしたが…)

環境を整えること、患者様の意欲や機能を最大限に引き出すケア、患者様への声のかけ方、患者様やご家族への励まし、ケアを通して感じる喜びと感謝、生命への尊敬。すべてが患者様の呼吸を支える要素となり、空気そのものになっていきます。今後も心して、慢性呼吸不全の方々のためのよりよいケアに取り組んで参ります。



2C病棟スタッフは患者様のより良い入浴方法を日々検討しています